

準備物記録用紙

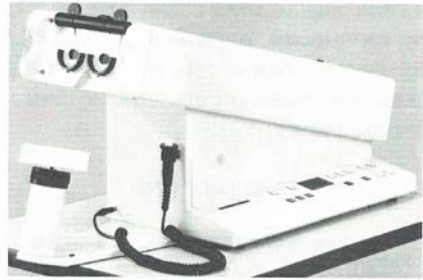
調節検査(アコモドメータ) 例)KOWA NP 説明書より



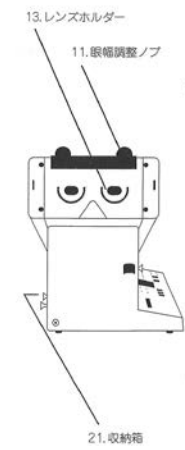
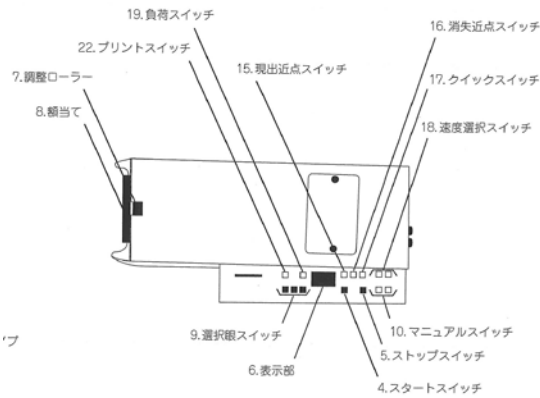
目的

調節機能の評価, 調節障害の自覚的検出

初期設定は*印



消失法と現出法により違う。



被検者に完全矯正レンズを装着させ、本体の電源を ON にする

調整ローラーを回して額あてを前後させ、被検者の角膜頂点を目盛板の十字線の中心に合わせ、眼幅調整ノブを持ち、瞳孔間距離を調整する



検査対象

- ・眼精疲労の診断
- ・近視障害を訴える疾患や外傷
- ・調節不全及び衰弱など

選択眼(左眼/右眼/*両眼)スイッチを選択し、マニュアルスイッチにて明視できる距離に視標を移動させるか見本の視標を見せて、中央のランドルト環が明瞭に見える状態を認識させ、被検者に視標がはっきり見えた時点または見えなくなった時点で応答スイッチを押すように指示する



* 現出(視標 50mmから遠方に移動)と消失(視標 400mmから近方に移動) 近点スイッチを選択し、被検者にあわせて速度(高速/*低速)スイッチも選択する

連続近点検査

マニュアル操作

負荷機能

もし完全矯正でないなら理論上誤差があるので、マニュアル操作で遠点も測定すべきである。

スタートスイッチを押し、10回連続して自動的に停止するまで(検査時間を短縮させる為に離れる方向に移動している途中でクイックスイッチを押すと、次からはクイックスイッチが押された時点での視標位置からのスタートにすることもできる)被検者には指示通り、応答スイッチを押させる

石原式近点計と同様に行う(現出法で行う場合は、視標を近くから離してゆく)



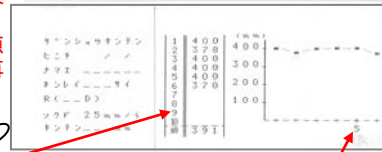
±50mmの範囲で往復運動をするので、近点の位置より5cm位遠方が良いかな。

マニュアルスイッチで視標を移動させ、明視できる範囲で往復運動の中心位置を設定する

負荷スイッチを押し、速度(高速/*低速)スイッチを選択し、20往復して自動的に停止するまで、被検者には指示通り、応答スイッチを押させる

グラフの表示が不要な場合は、ストップスイッチを押しながら、電源スイッチをONに。元のモードに戻すには電源スイッチをOFFにしてから再度ONにする。

連続近点検査 プリントアウト例

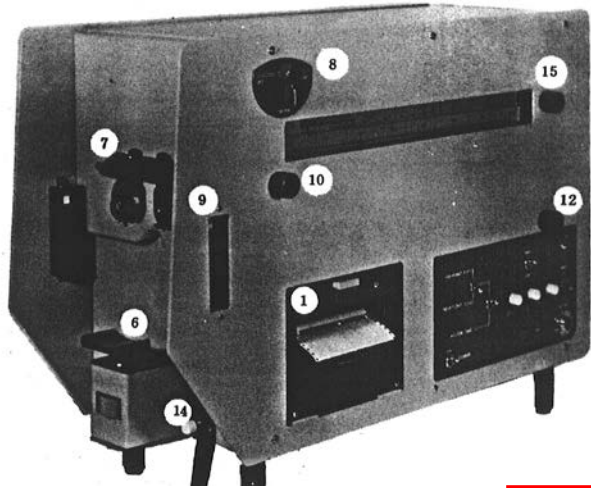


10回の近点と平均とそのグラフ 回数

検査が終了したら、プリントスイッチを押し、検査結果をプリントアウトする



準備物 記録用紙



検査対象

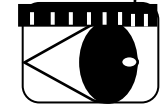
被検者に完全矯正レンズを装用させ、本体の電源を ON にする



⑧切替ノブを検査眼に応じ、切り替える(CENTER は輻湊近点にも使用可)

眼精疲労の診断
近見障害を訴える疾患や外傷
調節不全及び衰弱など

被検者の眼の高さにして 20cmほど離れて⑨窓口から被検者の眼を見ると、目盛が上部に見えるので⑩ノブで近点スケールの目盛りとを角膜頂点の上部の目盛を合わせ



⑪スイッチで NEAR POINT に切替え、⑫手動ノブ又は⇨(離れる)⊙(止まる)⇩(近づく)ボタンにて通常近点視標を 20cm前後にセットし、中央のランドルト環が明瞭に見える状態を認識させる



近点検査(手動)

近点検査(自動)

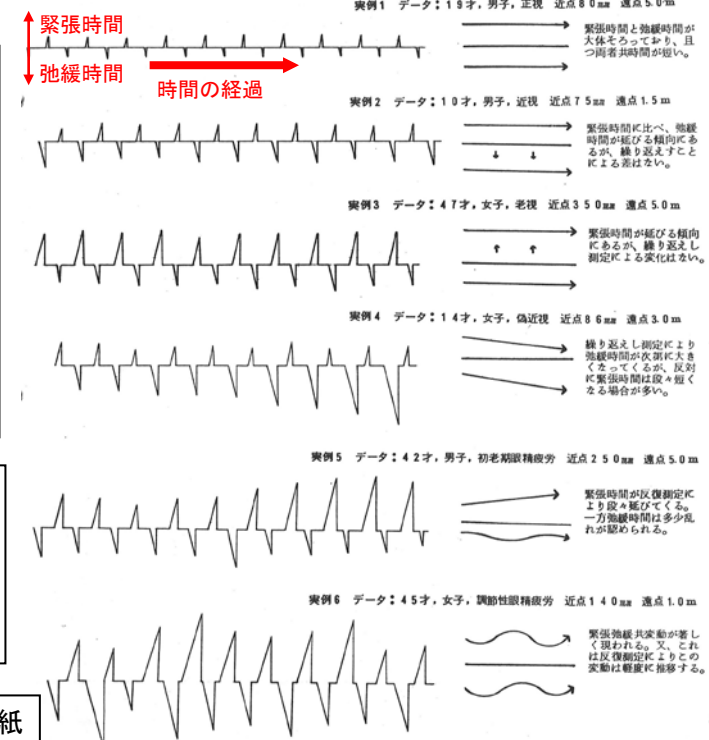
調節時間測定

調節時間測定 プリントアウト例

⑫手動ノブにて、現出法の場合は近くから離してゆき、はっきり見ると言った時点で止め、記録する

⑬スイッチで視標の速さを HIGH/LOW を選択し、現出法の場合は出発点を眼前近くに⇨ボタンを押し、はっきり見ると言った時点で⑭押ボタンを押すようにさせ、記録する

⑯スイッチを ACCOM TIME に合わせ、近点視標、遠点視標にそれぞれ合わせると 5 秒間隔で交互に距離が切り替わるので、はっきり見えた時点で⑮スイッチを押すようにさせる



数回繰り返す

遠点検査(手動)

⑪FAR POINT に合わせ現出法の場合⑮ノブを回して最も遠くに置き徐々に近づけ、はっきり見ると言った時点で止め、記録する

数回繰り返す

完全矯正していると∞(5m)が明視できてしまうので、遠点・近点とも低矯正にするか、遠点のみ低矯正して近点より低矯正した分戻してあげて調整力の計算をすること。